

令和4年度第2回遠野市総合計画審議会

－ 議事概要 －

(開催要領)

1 日時 令和4年8月8日(月)午後1時30分～午後3時20分

2 場所 あえりあ遠野 交流ホール

3 出席者

(1) 委員

会長	及川 増徳	遠野市社会福祉協議会会長
委員	松田 克之	遠野市消防団団長
委員	千葉 和	NPO法人遠野エコネット代表
委員	菊池 俊彦	一般社団法人遠野市医師会会長
委員	菊地セツ子	遠野市食生活改善推進員団体連絡協議会会長
委員	熊谷 義弘	遠野市体育協会会長
委員	佐藤 正市	遠野市民生児童委員協議会会長
委員	松田 希実	遠野市わらすっこ支援委員会委員長
委員	井手八重子	花巻農業協同組合理事
委員	濱田平八郎	遠野地方森林組合代表理事組合長
委員	三浦 芳昌	遠野市観光協会会長
委員	佐々木弘志	遠野商工会長
委員	関口 一二	遠野市校長会会長
委員	多田 宣史	遠野市PTA連合会会長
委員	赤坂 康紀	遠野市郷土芸能協議会会長
委員	石直 典高	遠野市ふるさとづくり市民会議副委員長
委員	海老 糸子	遠野市地域婦人団体協議会会長
委員	中村 貴徳	遠野市金融団
委員	相高 宏太	遠野ひまわり基金法律事務所弁護士
委員	佐々木浩章	遠野テレビ
代理	佐藤 浩一	一般財団法人遠野市教育文化振興財団
欠席	新里 佳子	TKプロジェクト実行委員会監事
欠席	河野 堅太	一般社団法人遠野青年会議所理事長
欠席	佐々木栄洋	地域づくり団体
欠席	佐藤 朝則	県南広域振興局経営企画部長

(2) 遠野市

市長	多田 一彦
副市長	鈴木 惣喜

教育長	佐々木一人
総務企画部長	鈴木 英呂
経営管理担当部長	佐々木 啓
健康福祉部長	菊池 寿
保健医療担当部長	佐々木一富
産業部長	阿部 順郎
市民センター所長	海老 寿子
教育部長	伊藤 貴行
消防本部消防長	千田 一志
会計管理者	新田 順子
総務企画部総務課長	佐々木伸二
総務企画部財政課長	白岩 克己
総務企画部経営企画課長	新田 正宏
建設課長	松田 一志
まちづくり推進課長	村上 明洋
環境課長	新田 眞一
上下水道課長	石田 史樹

(議事次第)

1 開 会

2 市長あいさつ

3 会長あいさつ

4 委員及び職員紹介

5 報 告

(1) 令和4年度の主要な取組について

ア 岩手県知事への統一要望の実施について

イ 地域再生計画の認定による企業版ふるさと納税の活用について

ウ 新型コロナウイルス感染症に係る取組等の状況について

エ 遠野市デジタルトランスフォーメーション(DX)の取組について

オ 遠野市の空き家対策等の状況について

6 審 議

(1) 遠野市まちづくり指標の令和3年度実績について

(2) 重要業績成果指標(KPI)の令和3年度実績について

7 その他

8 閉 会

【1 開会】

○総務企画部長

本日は、お忙しい中、遠野市総合計画審議会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。ただ今から、令和4年度第2回遠野市総合計画審議会を開会します。どうぞ、よろしくお願いいたします。

今回、各団体の役員改選により、新たに委員を委嘱させていただき、3名の委員をご紹介いたします。遠野市医師会の菊池俊彦様、遠野市体育協会の熊谷義弘様、遠野市ふるさとづくり市民会議の石直典高様です。ただ今、ご紹介した3名の皆様には、前委員の後任として令和5年4月30日までの任期で委員を委嘱しております。どうぞよろしくお願いいたします。

【2 市長あいさつ】

○総務企画部長

続きまして遠野市長から、ご挨拶を申し上げます。

○多田市長

お忙しい中、委員の皆様に出席いただき、また、日ごろ、それぞれの立場から様々なご協力をいただき、重ねて感謝申し上げます。

本日、新たに3名の委員に委員を委嘱させていただきました。任期の令和5年4月まで、よろしくお願いいたします。

ロシアのウクライナ侵攻や新型コロナウイルスの感染拡大により、市民生活は大変な状況となっています。市ではこれまでに3億2千万円ほどの予算を措置して、経済と感染予防の両立、物価高騰対策に取り組んでおり、9月議会にも追加予算を提案します。使える制度、使う気になってもらえる制度を実施していきます。

県内各地においても、様々なイベントが開催されてきており、遠野でも、日本のふるさと遠野まつりや産業まつりなどを開催できるように進めています。

委員の皆さんにも、遠野の元気を取り戻すことができるよう、ご協力をお願いします。

【3 会長あいさつ】

○総務企画部長

続きまして、本総合計画審議会の会長であります、及川会長から、ご挨拶を頂きたいと思います。

○及川増徳会長

お盆を控えて、感染が高止まり状況となっており、委員それぞれの所属団体でもコロナ感染症対策で、日々忙しい思いをされていると思えます。そのような中、本日は出席いただき、感謝申し上げます。

本日は報告事項5件と審議事項2件が予定されています。審議事項は令和3年度の実績ということで、その説明と審査ということになります。

本日は21人の出席であり、できるだけ多くの委員に発言していただきたいですし、限られた時間の中でもあることから、進行にはご協力をいただきながら、ご発言をお願いします。

【4 委員及び職員紹介】

続きまして、出席者報告及び日程の説明に入ります。

本日、委員の皆様の出席状況は、25名中、21名の皆様にご出席いただきました。ありがとうございます。なお、欠席の報告に関しましては、TKプロジェクト実行委員会の新里佳子副会長、一般社団法人遠野青年会議所の河野堅太委員、県南広域振興局の佐藤朝則委員、地域づくり団体の佐々木栄洋委員となっております。

市の出席者につきましては、別添資料の座席表に記載しておりますので、紹介を省略させていただきます。

【5 報告】

○及川増徳会長

それでは次第の5、「報告」に入ります。

報告事項は5項目ありますが、全て説明していただいた後に、一括で質問・意見をいただくこととします。それでは、事務局の方から、順次説明をお願いします。

【説明】

「岩手県知事への統一要望の実施について」経営企画課長

「地域再生計画の認定による企業版ふるさと納税の活用について」経営企画課長

「新型コロナウイルス感染症に係る取組等の状況について」経営管理担当部長

「遠野市デジタルトランスフォーメーションの取り組みについて」経営管理担当部長

「遠野市の空き家対策等の状況について」まちづくり振興課長

○及川増徳会長

事務局から説明がありました事項について、ご意見、ご質問をお願いします。

○佐藤浩一氏

新型コロナウイルス対策に関連して、ホップ収穫祭については延期という情報が入っています。市外の方からなども問い合わせが来ており、正確な情報について確認したいです。

○産業部長

ホップ収穫祭については、本日、延期ということを決めた段階です。市内での感染も広がっており、県内の病床使用率も4割程度まで上がってきています。このタイミングで飲食を伴うイベントの開催は、少し慎重に対応するべきではないかといったようなことから、このような判断としました。

今後、開催方法や開催時期について検討することとしており、決まり次第改めて周知させていただきます。

○佐藤浩一氏

開催方法等が決まり次第、情報提供をいただきたいです。

○三浦芳昌委員

ホップ収穫祭延期に関連して。市内の宿泊の状況については、収穫祭の日の予約はいっぱいです。これから、収穫祭が延期である旨をお客様に連絡することになります。延期の内容が決まったら、早めの情報提供をお願いします。

宿泊全般についてお話させていただきますが、コロナによる行動制限がないので、宿泊客数は少し伸びています。しかし、ビジネス客は個室を希望する傾向があり、部屋数が足りなくなるという状況があります。花巻・北上のレオパレスなどから通っているという状況もあり、できれば市内に宿泊してもらってお金を落としてほしいと思っています。以上、情報提供させていただきます。

○佐々木弘志委員

空き家対策の状況について、実態調査した空き家のうち、特定空き家はどの程度の件数が教えてほしいです。

○まちづくり推進課長

特定空き家については、空き家の1割程度です。新たに増えた分については、現地調査や所有者の確認などをする必要があるため、詳細な部分については、今後調査していきます。

○佐々木弘志委員

空き家と特定空き家をひとくくりにすると、空き家問題の実態が見えなくなるので、できれば分けて数の把握をして欲しいです。市にいろいろと伝えていますが、なかなか解決できない案件があります。

○まちづくり推進課長

特定空き家というのは、家の状態だけではなく、周囲に迷惑をかけているかどうかということも要件となります。そういう意味で、すぐ特定空き家と認定できるわけではないという実情もあり、今後、特定空き家の把握に努めていきます。

○井手八重子委員

昨年の米価下落から始まり、今年の資材高騰により、現在、農家は大変な状況です。花巻や北上に肩を並べて、というわけにはいかないかもしれませんが、もっと農家の実態に寄り添った対策について検討をお願いしたいです。

○産業部長

市としては外的要因に左右されにくい生産体制の確立を検討しています。例えば、粗飼料が高いのであれば、粗飼料の自給率を高めるよう、畜産のコントラクターを構築していきたいと考えています。

米作りについては、農薬や肥料も高くなっています。有機農業に取り組む場合の助成金(10万円)を予算措置したほか、減農薬の取組支援として、土壌診断を行い、必要な成分のみを肥料として投じる、余計な肥料を入れすぎないということを目指したいと考えています。

○及川増徳会長

ほかにご意見等ありませんか。無ければ、次第の5の報告については、この程度で終了としたいと思います。

6 審議

○ 及川増徳会長

それでは次第の6、「審議」に入ります。審議案件としては2項目用意されておりますので、2項目全てを説明いただいた後で、皆さまからご質問・ご意見をいただきたいと思っております。

なお、冒頭に申しましたとおり、本日は21名の委員の皆様にご出席いただいておりますので、できるだけ皆さんに発言していただきたいと思っております。資料を事前にご覧になり、複数のご質問を用意してきた方もいると思っておりますが、まずは、お一人1つずつのご質問とさせていただきます、一巡後に2回目の質問を、ということにさせていただきます。

それでは事務局の説明をお願いします。

【説明】

「遠野市まちづくり指標の令和3年度実績について」経営企画課長

「重要業績成果指標（KPI）の令和3年度実績について」経営企画課長

○及川増徳会長

事務局から説明のありました2項目について、ご意見・ご質問のある方は、挙手の上ご発言をお願いします。

○多田宜史委員

資料1-2 N0.59 ホースパーク利用者数について質問します。ホースパーク利用者に関する記載の中で、馬とのふれあいとありますが、そのふれあいの中身について伺います。また、その参加対象者は誰なのか教えてください。市民なのか、観光客なのか、子どもなのか、障がい者なのかなど。また、そのふれあい事業に使える馬は何頭いるのかについても教えてください。

今後の馬の里の収益改善のためには、レジャーホースの育成と乗馬クラブの運営が大事になるのではないかと考えています。どうやって稼げる馬の里にしていくのか、具体的なビジョンが必要ではないかと考えての質問です。

○産業部長

ふれあい体験については、保育園や小学生が行う引馬体験がメインです。乗馬教室もありますが、72名程度が参加しています。次に所有馬ですが、ふれあい体験用の馬は10頭、乗馬教室用の馬は2頭所有しています。

乗馬クラブでの収益の柱を、とのお話しがありましたが、馬の里の最初の目標は、競走馬部門で利益を上げてホースパークの運営や乗用馬の育成を実施するというものです。しかし、実際には競走馬部門でなかなか収益が上がっていない状況です。

新たに畜産振興公社の理事長に生産者代表が就任しています。馬の里として、市民の間に馬に対するこういったニーズがあるのか把握していきたいですし、競走馬、農用馬、遊び馬など、どこに焦点

をあてていくべきかを検討しています。

また、ご意見のとおり、もう一つの収益の柱建ては必要であると認識しています。経営改善の中でいろいろ議論していますが、ホースパーク事業は、馬の里設立の際の3つの柱の一つであり、もっとも市民に還元できる事業であるので、活性化に向けて努力していきます。

○及川増徳会長

資料1-2の学力検査の結果について伺います。令和3年度は前年に比べて、若干下がっている状況です。先日、県内の学力検査の結果についての記事が岩手日報に掲載されていました。いくつか課題があるとされていましたが、解決策として、指導力の向上と、学習者側の家庭学習があげられています。

様々な施策は取り組まれており、指導する側の先生方の懸命な努力はうかがえますが、児童生徒の結果に思うように繋がっていないようです。学習者である児童生徒側の努力はどうか。中学生の家庭学習の時間。2時間以上家庭学習している子どもの割合が、岩手県では全国より16ポイント下回っているとのことでした。

市内の児童生徒の2時間以上家庭学習をしている割合というのはどうなっているのかと、今後の家庭学習への取組について、併せてお聞きします。

○教育部長

令和2年度は全国学力・学習状況調査が無かったため、昨年度は数字を紹介できませんでした。令和3年度の状況についてお知らせします。

小学校では、令和3年度の2時間以上家庭学習をしている割合は15.5%で、全国比ではマイナス11.4ポイント、県比較ではマイナス2.2ポイントとなっています。これが、令和4年度になりますと、19.5ポイントと、4ポイントほど改善しています。全国比ではマイナス5.6ポイントですが、県との比較では1.2ポイント上回っている状況にあります。

中学校では、令和3年度の2時間以上家庭学習をしている割合は15.1%で、全国比ではマイナス25.7ポイント、県比較ではマイナス7.2ポイントです。

令和4年度の状況では、20.7%と、前年から5.6ポイント改善しています。全国比ではマイナス14.5ポイントですが、県との比較では1.6ポイント上回っています。

具体的な取組についてですが、授業で身に着けた力を着実に定着させるために、家庭学習の質と量の両面を充実させていくことが重要です。授業で学んだことから目的や課題意識を明確にして、授業と連携した家庭学習の仕方について、指導していくことが必要であります。

また、GIGAスクールで一人一台のICT端末も整備しており、本年度からはドリルソフトも活用できるようにしています。この端末の持ち帰りも進めております。

個々の学習履歴を確実に残して、指導に生かしていくようにしたいと思います。

○千葉和委員

全体的なことでは思ったことですが、指標が達成されたかどうかの%。その主な理由がコロナだということが記載されています。それは分かるのですが、果たしてそれだけでよいのかなと感じます。総合計画は市の最上位計画であり、コロナということを想定していないで作られていると思います。しかし、実際にこれだけコロナの影響を受けている状況の中で、この計画の見直しについて、検討する

必要はないのでしょうか。

○総務企画部長

千葉委員が言われるとおり、このようにコロナが長引くということは想定できませんでしたし、まだまだ終息も見通せない部分もあります。

総合計画自体の計画事業については、そのまま推進していくということに変わりはありません。指標については、内部でもいろいろ検討した経過はありますが、コロナに影響を受けない部分もありますので、このままの指標で5年間進めるということにしています。

今回の資料の中では、コロナの影響を受けたもの、ということで整理していますが、実際には、それ以外の内的・外的要因もあります。それらを資料にはまとめて記載してはおりませんが、この指標で進めていきたいというのが我々の考えです。

○三浦芳昌委員

先日は、市長に大宮までおいでいただき、一生懸命PRしていただき、ありがとうございます。

現在SL銀河を運航しており、1回の便に100人ぐらい乗っています。遠野で1時間ぐらい停車しているということで、その間に市内で活用できるクーポンなどを配布し、市内の回遊を促しています。また、お出迎えなどでは婦人会にもご協力いただいております、感謝申し上げます。

来年でSL銀河は終わるということで、その後のことについて、違う電車を走らせるか、何かやらなければ観光協会でも思っています。市の方でなにかアイデアがあるか伺います。

○産業部長

8月2日、JR企画部門が市長を来訪しました。内容は、新聞で赤字路線についての報道が流れていますが、釜石線については活性化という方向で考えていこうということで確認が取れています。SL銀河については、来年度のGWで運休ということとなっておりますが、その後は別のイベント列車という話も出ています。今後もJRと一緒に考えていきます。

○三浦芳昌委員

ぜひ、市長や副市長にも一緒にお客様のお出迎え・お見送りに参加してもらえればと思います。PRの動画も作っているので、YouTubeで検索してご覧になってほしいと思います。

○佐藤浩一氏

まちづくり指標77番の移住者世帯数について伺います。令和3年度の17組の実績は素晴らしいと思います。関係者の努力に敬意を表します。その17組の内訳ということになります。県内とか東京方面とか、どちらから移住してきているのか。年代はいくつぐらいなのか。また、空き家に定住したのかなど、分かる範囲で教えてください。

TVでも、移住についていろいろとPRなどがされていますので、そういった広報活動が移住の増になるのではと思っています。それが人口減少対策の一助になるのではと考えているので、実態について教えてください。

○産業部長

令和3年度に移住者にアンケートを実施しています。移住前の生活場所については、東北と関東がそれぞれ約4割です。また、移住者の年代については、20代後半で一つのピークがあり、50代後半から60代前半がもう一つのピークとなっており、二極化しています。また、今の移住者については、全て空き家への移住となっています。

空き家登録数は令和3年度が25件で、登録後3年間動きが無いといったん削除して、再登録ということになりますが、大体この程度の件数で推移しています。

空き家について、民泊協会と情報交換をしています。農家民泊の2割がホームステイ型で、残りの8割は一棟貸しで、観光でも利用できるし、企業の短期的滞在や2地域居住にも活用できる形とのことです。

○多田宜史委員

アンケートを取ったとのことですが、移住を決めたきっかけについて、把握していれば教えていただきたいです。それに関連して提案ですが、遠野に移住を考えるにあたって、郷土芸能というのは大きいのではないのでしょうか。「で・くらす」のホームページの16万Viewというのはかなり大きいと思います。例えば「で・くらす」で空き家の紹介をしていますが、この空き家のある地域では、こんな郷土芸能が受け継がれていて、それに参加できます、といった情報を加えてみては。遠野ならではの目玉をそこに盛り込んでいってはどうかと思います。

○産業部長

決め手というか、一番苦労した点は何か、というアンケート項目があり、「仕事」と「住居」の課題があるということです。それらの条件が整えば、移住ということになっていくこととなります。

それから、「地域の文化やコミュニティ」という項目があるのですが、28%の方が移住の前に知っておきたい項目と回答しています。そこには当然郷土芸能も含まれるものと思いますから、ご提案のあったようにHPに乗せる情報について、できるだけ知りたい情報が載っている、というように検討したいと思います。

○濱田平八郎委員

まちづくり指標の64、65、66に関連してお話しします。現在、戦後に植えた木が伐期を迎えており、その伐採と再生林の話が出ることがあります。

現在、いわゆるウッドショックで木材価格は上がっておりますが、山の木の価格そのものには影響が及んでいません。そのため、山主に再生林するだけの利益が残らない状況です。県の予算が十分に確保されないと、指標の達成は難しいと思われるので、県に対して、十分な予算の確保を要望してほしいです。

今後、バイオマスエネルギーとしての利用や、農道の整備、防災、環境等の問題などトータル的に検討していかなければいけないと思っています。

○産業部長

ウッドショックといわれていますが、木工団地が遠野産材をどう市場に売り出していくかということが大事です。カーボンニュートラルやSDGs、ウクライナ問題によるロシア産材が入ってこな

いなど、いろいろな要素で国産材に注目が集まっています。

その時に遠野はどうするのかということですが、木工団地の目的はバリューチェーンの構築です。一気通貫に原木から生産まで、木工団地全体で収益と付加価値を上げていこうというのがそもそもの構想です。このバリューチェーン構築のために必要なものは共通の市場ということになります。

しかし、それぞれの事業者が個別にお得意様を持って営業活動をしています。それが悪いとは言えませんが、もう一つ、共通の市場を遠野市全体として検討していかなければいけないし、それが、市長が申し上げる「遠野型住宅」ということになるのではないかと考えています。

もう一つ大事なことは、ジャストインタイムでの提供ができることですが、これがなかなかできていません。一連の生産の中で、どこがボトルネックになっているのか、それを分析して解決していきます。

○濱田平八郎委員

遠野の一大産業として、関係機関一同で努力していくので、引き続きお願いします。

○及川増徳会長

資料 No. 2-2 の KPI の 15 番と 16 番について伺います。この地域で子育てをしたいという親の割合が、前年に比べて 5 ポイントほど下がっています。子育て世代の親からすると、やや不満があるということなのかと感じます。子育てとして、こういう部分が不足している、ということなのではないでしょうか。

子育て支援認定事業者について、認定後の事後調査などは行っているのですか。政策に反映させられるような調査を行っているのであれば、そのことについて教えてください。

○健康福祉部長

この地域で子育てをしたいという親の割合については、国の計画で調査することを義務づけられています。具体的には乳幼児健康診査の際に調査を実施しています。3つの検診の中で、保護者の方にアンケートを取っています。

実際には 3 歳 5 か月～6 か月児の母親が中心となりますが、子育ての中での思いが回答されています。育児休暇が終わって働いている方もいます。

質問項目の中の理由という部分については、自由記載ということで、なかなか集計しにくい部分もあります。全ての人が記載しているわけではありませんが、小児科の医療体制へのことなどもあります。

わらすっこ応援事業者については、事業者の子育て支援の自主的な取組を認定しているものです。申請時には調査はしていますが、その事業者の自主性を尊重するものであり、5 年間の認定調査の中では調査はしていません。更新時にこれまでの取組を評価するなどしています。

○三浦芳昌委員

河川清掃について質問します。遠野の河川は他所に比べてとてもきれいであると感じています。先日の河川清掃に私も出席しましたが、すでにきれいになっていて、子どもたちがゴミ拾いに来たけれど、ゴミも落ちていないといった状況でした。

しかし、昨年この会議で、内館委員がこれから人が少なくなっていく中で、河川清掃をどうする

のかという質問をしていましたが、今年も人が少ないかなと感じました。少子高齢化の中で何をやるにも大変なことになってくると思います。河川清掃も何か手立てを考えないと、参加者がどんどん減っていくと思います。

今年の河川清掃では、斜面は既に草刈りがされていて、みんな来てもやることが無いので、すぐ帰ってしまう状況でした。河川清掃をやる意味があるのかな、という話も出たりしましたが、今後、どうしていこうとしているのか伺います。

○環境課長

河川清掃にご協力いただき、ありがとうございます。

宮守町では6月、青笹町では7月に河川清掃を実施しています。確かに、年々参加者は少なくなってきたというのは、委員ご質問のとおりですが、作業面積については、例年どおりやっていただいたとの報告を受けています。

本年から、岩手県所有の草刈り機械を2台借りるなどしており、できる範囲の中でご協力をお願いします。また、今後の河川清掃については、ご意見を踏まえて検討してまいります。

○佐々木弘志委員

後期基本計画は令和7年までの計画となっておりますが、先ほど千葉和委員から話があったように、コロナのことが加味されていません。もう一つ、DXのことが加味されていないと感じています。

今回の報告事項にDXのことがありましたが、DXに関する基本的な考え方というのはどういったことか伺います。

基本的にDXで市民への行政サービスを充実させようとする、マイナンバーカードが必要ですが、市民への普及率は低い。そうすると持っているかどうかで、情報格差が出てしまうということで、そういう状況の中で、どのように市民の利便性を向上させ、DXで何をやりたいのかを教えてください。

○経営管理担当部長

報告資料 No. 4 をご覧ください。第1には市民の利便性を向上させるということで、具体的な内容については、資料3ページにDX推進の基本施策ということで記載しております。

マイナンバーカードの普及が進んでいないのではないかとというのは、ご指摘のとおりです。マイナンバーカードを取得しても活用できる場面が少ないというのが現状で、そういったこともあって普及が進んでいません。将来的に活用できる場面が増えていくことが見込まれますので、それに向けて普及を進めている状況です。

今月号の広報に掲載していますが、各地区での出張申請窓口も設ける予定としており、マイナンバーカードを普及させていきます。

市民窓口のオンライン化は少し時間がかかると思いますが、長期的に見れば、必要となってくるものであり、準備を進めていくことが必要と考えています。

また、個別施策としてAIやRPAと記載しておりますが、AIは人工知能、RPAは定型業務をロボット化で自動処理するというものであります。そのほか、先進技術については、ドローンの活用など農業分野や産業分野などの幅広い分野でDXを進めていきます。

○佐々木弘志委員

以前に住基ネット、住基カードというのがありました。果たして市役所の職員もどの程度取得していたのかわかりませんが、いつの間になくなって、マイナンバーカードに代わりました。

例としてコロナが流行った時、台湾でオードリー・タンという情報担当大臣が、台湾全土のどこにマスクがあるという情報を、瞬時に提供しました。そういった素早い情報提供等ができないと、市民の間でこれは便利だ、ということにはならないのではと思います。

報告資料を見たときに、具体的にDXで何をやるのかが分かりにくい。国は、ポイントを付けてかしてカードの普及をしようとしています。実際に何に活用するのか。それを国に任せるのか、自治体が自らやるのか、その辺がどうも分かりにくいと感じます。

遠野市として、DXで何をやるのか市民に具体的に説明することができないと、市民のカードを取得したいという意欲につながらないのではないかと思います。

○経営管理担当部長

ご意見を参考に進めてまいりたいと思います。現在アクションプランの策定を進めておりますので、その中で、市民の皆様に分かりやすい周知を図ってまいります。

○多田宜史委員

資料1-2、まちづくり指標の74番の「中心市街地の通行者数」について伺います。今回、初めて審議会委員になり資料を拝見しましたが、この実績数値を見て、あまりにも少ないのではないかと感じました。一つ上の73番の中心市街地の観光施設の入込数とのギャップが大きすぎて違和感があります。

中心市街地の活性化について、その状況を図る指標は73と74の2つしかないと思いますが、この数値の測定方法は適切なのか。測定方法を教えてください。

○産業部長

9月の第1日曜日とその翌日の平日の2日間に調査を実施し、その平均値となります。その2日間の歩行者と自転車、バイクの通行量の調査ということになりますので、年間を通じた数値ということではありません。

市内中心市街地の5か所で計測し、その合計がこの数値となります。

○多田宜史委員

市内5か所の歩行者などの通行量を増やすことができれば、中心市街地の活性化ができていくという評価になるという理解で良いですか。

○産業部長

そのようなこととなります。数値の把握方法を変えると、データの連続性など、後で混乱することがあるので、当面はこの数値でいきたいと思います。

要は、市内をどの程度の人が回遊しているのかというのを知るための指標でありますので、当面はこの指標で進めてまいりたいと思います。

○及川増徳会長

ほかにご意見・ご質問ありませんか。無いようですので、質疑については、これで打ち切りたいと思います。

それでは、本日の審議事項2件について、委員の皆様より多くのご意見等をいただきましたが、議案の内容について、了とすることによろしいでしょうか。

(賛同する旨の発言あり)

○及川増徳会長

それでは、本日の審議事項「遠野市まちづくり指標の令和3年度実績について」と「重要業績成果指標（KPI）の令和3年度実績について」は事務局提案のとおり承認することで決めます。

7 その他

○及川増徳会長

それでは次第の「7その他」に入ります。事務局で何かありますか。

○総務企画部長

次回の総合計画審議会は、本年度末か来年度当初の開催を予定しております。令和5年度の当初予算と主要事業について、ご説明する予定としております。

○及川増徳会長

事務局より、次回開催についての説明がありました。その他、委員の皆さんからは何かありますか。無ければ、以上で審議を終了とし、進行を事務局へお返しします。

8 閉会

○総務企画部長

及川会長、会議の速やかな進行ありがとうございました。ここで市長からご挨拶を申し上げます。

○多田市長

本日は、たくさんのご意見ありがとうございます。これからの参考にさせていただくとともに、もっと前に進めるようにチャレンジしてまいります。

令和3年度の様々な実績について報告させて頂きましたが、数字にするとこのような結果になるわけですが、色々な施策に取り組んだ結果、どうなったという実感が、数字とじっくり合わない部分がある気がします。

馬の里の話がありました。構造的に変えていかなければいけないものもあります。積極的にチャレンジしていかなければならない。同時に私たちの感覚も変えていかなければならない。

DXのことについてのご意見もありました。国が進めようとしているデジタル田園都市というものがあり、全部のデザインを見つめなおすということも必要になってくると思います。

子どもの学習のことも大事。学習をやっているだけではなくて、もっと積極的なところからやっていかなければいけません。先日、森フェスにも行ってきましたが、あれは最高の教育といえるのではないかと感じましたので、皆さんにも紹介したいと思います。

林業振興のご意見もありました。森林環境譲与税というものもあり、貯めておくのではなくて、積極的に活用していかなければいけない。

これからも色々と勉強させてください。本日はどうもありがとうございました。

○総務企画部長

以上を持ちまして、令和4年度第2回遠野市総合計画審議会を閉会いたします。皆様大変ありがとうございました。